

**北河内LD研究会 講演会報告** (第4回第5回)**【第4回】**

日時 1月19日(水)

場所 門真ルミエールホール

**テーマ****「一人一人を見つめて」～通常学級と校内での取り組みを通して～****講師 堺市立向丘小学校・堺LD研究会  
米田 和子先生**

3学期が始まってまもなくの水曜日、会場は130人あまりの参加者で熱気にあふれていました。

米田先生から発達障害についての丁寧な説明がありました。また、LD及び周辺の子どもたちとは『学び方の違う子ども』と捉え、認知特性・障害特徴に配慮することが大切だということを、疑似体験などから具体的に学ぶことができました。子どものもつ問題点を認知レベルから見ることで、子どものセルフエスティームを下げないで適切な支援を考えることができます。それを見つけることが出来るのはまず通常学級の担任であるから、全ての教師が研修を積んでいくことが必要だと言うことを改めて強く感じました。

『みんな違って みんないい』違いを認め合う学級集団作りや、校内体制作りの必要性を強く感じました。また、保護者との信頼関係がまず大切で、その上でより子どもの支援方法が分かる検査があることを伝えると、どの保護者も安心して支援を託してくださるというお話でした。たくさんのお話を教えていただきました。少しずつ出来ることから取り組んでいきたいと思いました。

最後に『LD及び周辺の子ども達が生き生きできる学校とは すべての子ども達が生き生き出来る学校！そんな学校づくりを目指して・・・』のことばが印象に残りました。

## 【第5回】

日時 1月28日(金)

場所 寝屋川教育研修センター

## テーマ

「発達障害のある児童・生徒と思春期の課題（二次障害への向き合い方）」

講師 大阪少年鑑別所首席専門官  
小栗正幸先生

今回の講演会は6時からという遅い時間にもかかわらず、約60名の参加がありました。

人間の全ての行いが脳の働きによるという観点から、様々な指導の方法まで本当に具体的な話が多く、とても有意義な講演会でした。

発達障害のある子どもが必ずしも非行化しやすいのではなくむしろ非行化しにくいのが現状であるが、未療育の場合には注意が必要であるというお話から、改めて早期発見・早期療育の大切さを実感しました。そして、残念ながら発達障害の子どもが適応できにくい社会の中で生じてくる二次障害については、その予防や方策について具体的な形で示していただきました。

～「ほめて育てる」ことは、どんな子どもにとっても非常に大切であることはよく言われているが、ほめて指導する＝脳内の回路を育てることであり、発達障害の子どもには特に有効であるということ。しかし、叱ることを否定すれば指導はできなくなる。悪いことは悪いと教えることは大切であるが、その叱り方に工夫が必要であること。その具体的な方法として、例えば、できるだけ小さな声で「今から叱るよ」という一言からはじめるなど。～

対人関係や性に関しての指導のポイントも同様にとっても具体的に例を挙げながら説明していただきました。また、実際に指導していく中で実践できそうなことや、心掛ければならないことなどが多くあり、もっと多くの先生方に聞いていただきたい内容でした。今回の小栗先生のお話を参考にしながら、一番困っているのは子ども自身であることを忘れずに、教師としてできる限りの支援をしていければと考えています。